



市立長浜病院
滋賀県長浜市大成亥町313番地
Tel: 68-2300 (代表) FAX:65-1259

■発行責任者/院長 神田 雄史
■編集/市立長浜病院広報部会

市立長浜病院だより

理念 地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、地域完結型の医療を進めます。

診療局

心臓と血管の病気 治療のタイムミング

当院に心臓血管外科が開設されたのは平成八年で、当時の流行語は、「アムラー」や「チヨベリバ・チヨベリグ」、そして、読売ジャイアンツ長嶋監督の「メーカードラマ」が流行語大賞でした。滋賀県北東部で唯一の心臓血管外科として誕生して二十一年、湖北湖東地域の心臓血管手術を担うという使命は今も昔も変わりません。

当科では、主に成人の心臓・血管の病気を扱っていますが、少ないながら先天性の病気も手術しています。主な手術例は次表のとおりで、昨年は三十三件の実績でした。

心臓や血管の病気は薬で治るといっても少なく、殆どの場合、薬は症状を起こり難くしたり、進行を遅らせる効果を期待することが多く、根本的な治療にはなり難いものです。症状が現れた時が治療開始のタイムミングで、この時期を逃すと、歳を重ねながら症状が重くなつていき、手術のリスクも高くなっていきます。同じ手術でも症状や年齢によってはリスクが高くなることも珍しくありません。

主な手術例（昨年実績 三十三件）

- 一 心臓を養う冠動脈の病気（狭心症・心筋梗塞・心臓破裂・心筋症等）での冠動脈バイパス手術など
- 二 心臓の中の弁の病気（大動脈弁・僧帽弁・三尖弁等の狭窄症や閉鎖不全症、感染性心内膜炎）での弁形成術や人工弁による弁置換術など
- 三 不整脈（心房細動等）でのメイズ手術など
- 四 大動脈の病気（大動脈瘤、大動脈解離等）での人工血管による大動脈置換術・胸やお腹を切らないステンドグラフト手術など
- 五 手足の血管（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤等）でのバイパス術、ストリッピング手術、シャント手術など

多いために、「年齢のせいかな？」とか「無理しなければ大丈夫」と考えがちです。これらは全て心臓疾患が原因とは限りませんが、まずは病院での受診をお勧めします。

最近、ACジャパンで上杉謙信と武田信玄のCMが流れていますね。

検診（謙信）の
進言（信玄）です！

術後のアフターケア

通常は、術後二週間前後で退院となりますが、手術のタイムミングが遅れてしまうと心臓の筋肉に疲労が蓄積しており（心拡大・心肥大）、手術をしても直ぐには回復しないこともあり、ここぞで心臓リハビリテーションの出番となります。手術翌日から開始し、退院後は外来で



心臓血管外科
洞井医師 吉良医師 曾我医師（筆者） 鄒医師

リハビリを行います。医師・看護師・理学療法士のチームがきめ細やかなサポートを行いますので、スムーズに日常生活を取り戻していただくことができます。



心臓リハビリテーション

最後に

当院で殆どの心臓血管手術を受けていただけます。当科外来を予約いただくか、本館一階の患者相談窓口でご相談ください。（心臓血管外科責任部長 曾我医師）

基本方針

1. 患者の権利、尊厳を重視した医療を実践します。
2. 地域の医療関係者との連携を深め、地域医療の発展のためにつくします。
3. 高度で良質な医療水準を確保し、安全で信頼される医療を進めます。
4. 快適な療養環境の整備と、質の高いケアに務めます。
5. 医学研究活動を推進し、優れた医療人を育成します。
6. 職員が互いに尊重、協力してチーム医療を実践します。
7. 職員が元気で働きがいのある職場づくりに務めます。



平成29年4月 市立長浜病院リウマチセンターを開設

リウマチ膠原病の診療拠点として
専門内科医と整形外科医が連携

当院にリウマチセンターが本年四月一日に開設され、センター長として運営を担当することになりました。

これまでの当院のリウマチ治療は、主に京都大学臨床免疫学講座（三森経世教授）から派遣された非常勤の先生方によって担われてきましたが、非常勤の先生方だけでは、病状の急激な悪化や合併症の発生時など、即座の入院治療が必要な際の対応が必ずしも十分とは言えません。

私は平成十六年に京都大学臨床免疫学講座助教授から金沢医科大学血液免疫内科教授に着任して以来十年以上にわたり北陸地方のリウマチ治療に関わってきましたが、北陸地方には専門医も専門病院も少なく、リウマチ膠原病の診療が大変手薄であることを痛感していました。滋賀県は行政区域は近畿圏になりますが、長浜市は地理的にも医療環境面でも北陸三県と非常に似ており、リウマチ膠原病の専門医が少なく、診療拠点がありませんでした。



中村医師 梅原医師 良永秘書
佐藤医師 (筆者) 廣瀬医師 川中医師

幸いにも前職場の金沢医科大学リウマチ膠原病内科と一緒に診療に携わってきた中村拓路先生、佐藤智美先生、良永幸恵秘書と川中紀邦先生の五人体制での入院治療が可能なリウマチ科を開設することができました。これまでは診断や治療が難渋する重症患者さんは京都大学医学部付属病院へ紹介し治療をお願いしていましたが、これからは当院で責任をもって治療させていただきます。

加えて当院のリウマチセン

ターの特徴は、整形外科の廣瀬伸次責任部長にメンバーに加わっていただき、整形外科医と連携した治療ができることです。

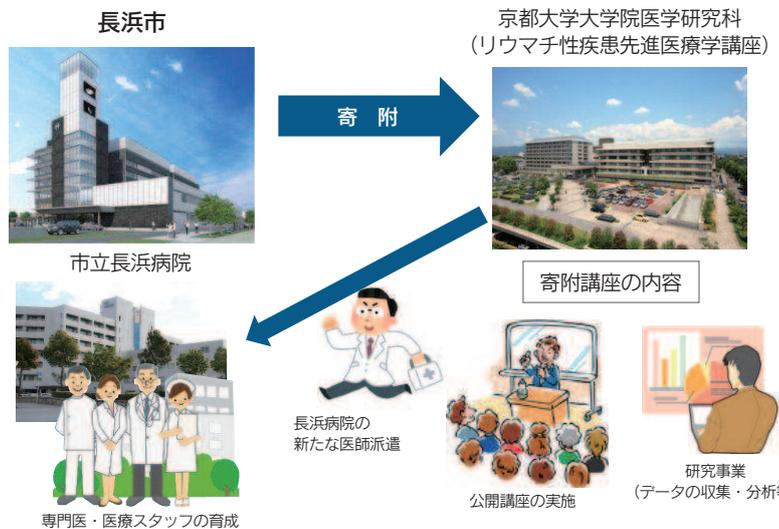
ながはま

リウマチコホート

これまで長浜市では京都大学医学部と連携して遺伝子解析を含む健康推進プロジェクト「ながはまO次予防コホート」が実施されてきましたが、当センター開設と同時に京都大学で実施されている「NACOMYコホート」システムの全面的な支援を受けて、「ながはまリウマチコホート」が開始されました。これは当院リウマチセンターを受診された患者さん全員にアンケート調査を行い、関節点数や患者さんの自覚症状など、検査結果をデータベース化していく取り組みです。

現在の医療は、医学の急激な進歩によって非常に高度化しており、効果のある高い新薬が日常的に使われるようになってきました。その分、患者さんの経済的負担や免疫抑制による日和見感染症等が増えていきます。これからの医療は、一方的に医者が患者に施すのではなく、最善の結果を患者に還元

リウマチ性疾患先進医療学講座（寄附講座）



できたかが問われます。その意味で、「コホート調査は自分達が行った治療が正しかったのかを判断する貴重なデータになります。」

論語に、「学びて思わざれば則ち罔（くら）し、思いて学ばざれば則ち殆（あや）し」という言葉があります。

当院リウマチセンターでは、ひとり一人の患者さんのデータを大切にしていまいます。

（診療局理事 梅原医師）

今号では、当院が湖北湖東地域における診療拠点としての役割を担っている心臓血管外科とリウマチセンターを紹介させていただきます。診療内容等の詳細につきましては、当院ホームページで紹介していますので、是非、ご覧ください。

編集
後記

患者さんの権利（患者権利章典）

だれもが一人の人間として、その人格や価値観などを尊重されたもとの、医療を受けることができます。だれもが、どのような病気にかかった場合でも、適切な医療を公平に受けることができます。病気、検査、治療、見通し、危険性など、自らの診療に関する十分な説明と情報を得ることができます。十分に理解し納得した上で、検査や治療などを、自らの意思で選択し決定することができます。診療の過程で得られた個人情報については、関係法令、条例および院内規程に従い保護され、また院内において私的な生活を可能なかぎり他人にさらされず、乱されないで過ごすことができます。